

AHA2023に参加して

数藤久美子

この度は日本循環器学会第15回 Travel Award for Women Cardiologists(JCS/TAWC)に選んでいただきまして、誠にありがとうございました。渡米前に受賞メールをみてテンションが上がりました。

2023年11月11日～13日にペンシルベニア州フィラデルフィアで開催された American Heart Association(AHA)2023 Scientific Sessionに参加しましたので報告致します。

AHA2014で初めて参加して以来これが3回目となりますが、2019年にAHAで発表して以来の久しぶりの渡米でした。ここ数年はCOVID-19の影響でWEBでの開催が多く、久しぶりの対面での開催でしたので、緊張しました。ただ、海外の方々との情報交換やディスカッションを行っていく中で、有意義な時間を過ごすことができました。実際のところWebですと自宅から子どもの面倒を見ながら、発表を聴講できたメリットはあったものの、なかなか腹を割った話ができませんでした。雑談の中にも多様な考え方があり、自分の殻を打ち破ることもありました。その中でも、実験についてのアイデアをもらうこともでき、今後の研究の糧となりました。

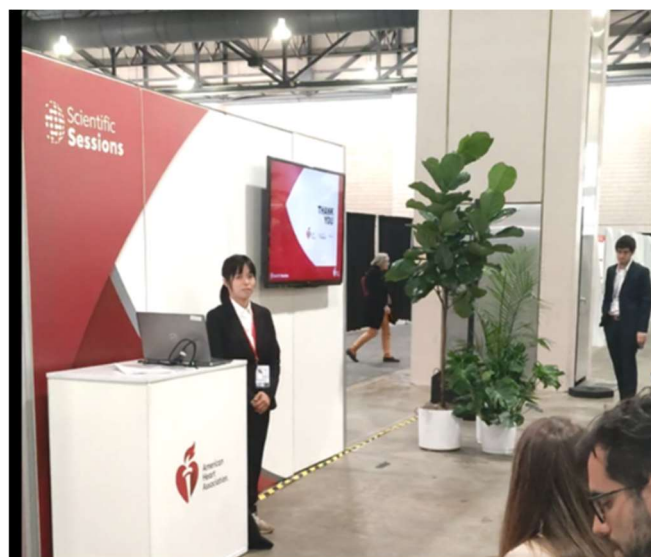
私は、徳島大学教授佐田政隆先生、大阪公立大学教授福田大受先生に師事し、動脈硬化の基盤病態に関して研究をしております。

現在は、核酸受容体が血管の炎症と動脈硬化に与える影響についての研究を行っています。今回のAHAの発表では、「マクロファージに存在するDNase IIが、障害を受けた血管構成細胞から放出される遊離核酸断片を分解し、核酸受容体を介した炎症応答を減弱することで、血管の炎症や動脈硬化病変の形成を抑制する」という新しい仮説に基づく研究について発表を行いました。

動脈硬化は血管壁の炎症で生じるのですが、その機序については十分明らかになっておらず、炎症を分子標的とした治療方法の開発も不十分です。

今回の研究課題では、核酸断片やDNase IIに注目し、マクロファージ活性化や血管の炎症機序を明らかにすることを目的としています。マクロファージに存在するDNase IIが、障害を受けた血管構成細胞から放出されるDNA断片を分解し、TLR9を介した炎症応答を減弱することで、血管の炎症や動脈硬化病変の形成を抑制することがわかりました。

本研究が評価され、Abstract Rapid Fire Oralに選出され、さらにATVB Early Career Networking Receptionにも選出されたことを非常に光栄に思っています。



話は変わりますが、私は2016年に結婚し、2017年に長男、2022年に長女を出産しました。1人目を妊娠したとき、教授からは基礎研究という道を勧めてもらいました。それまでは一人一人の患者さんと向き合っていました。たくさんの患者さんの治療に結びつく基礎研究に面白みを見つけ、邁進してきました。ただ現実には甘くなく、なかなか研究がうまくいかない上、夫+子どもが言うことを聞いてくれず、イライラすることも多々あります。ストレスの発散方法は研究に向き合い現実逃避と書きたかったのですが、基本、食べて、寝ること、特にお肉をたっぷり食べることです。

今回、家族で渡米し、学会の間は夫に子どもたちの面倒を見てもらい、一緒に科学博物館に行っ

たりしていたようです。夜は家族でステーキを連日いただきました。

COVID-19 が終息したこともあり、今後は海外留学も視野に入れながら、積極的に学会に参加し、英語力を磨き、研究に励みたいと思っています。また、今後入局してくる若手医師の皆さんに臨床だけでなく、研究の面白さを理解してもらえ、海外の学会で発表できるように支援をできればと思っています。

最後になりましたが、ダイバーシティ推進委員会の関係者の皆様方をはじめ、終始熱心なご指導を頂いた佐田先生、福田先生、そしてラボの皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

